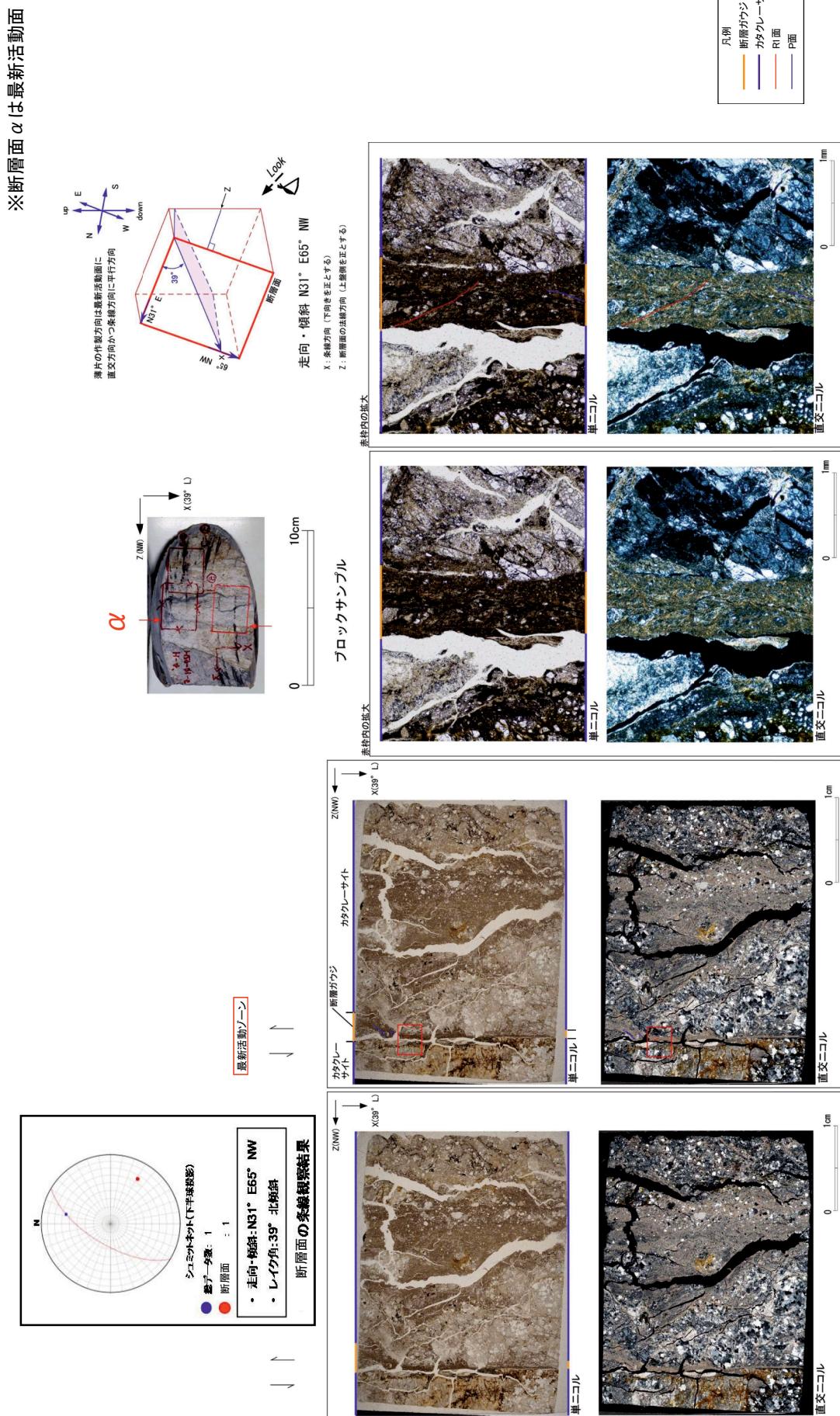
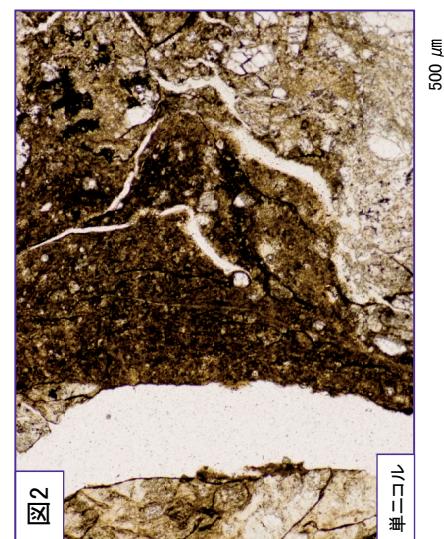
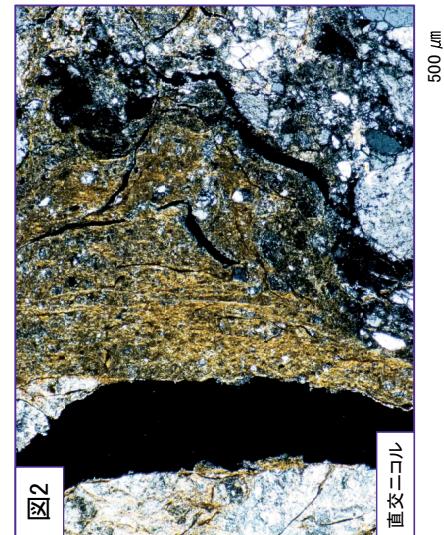
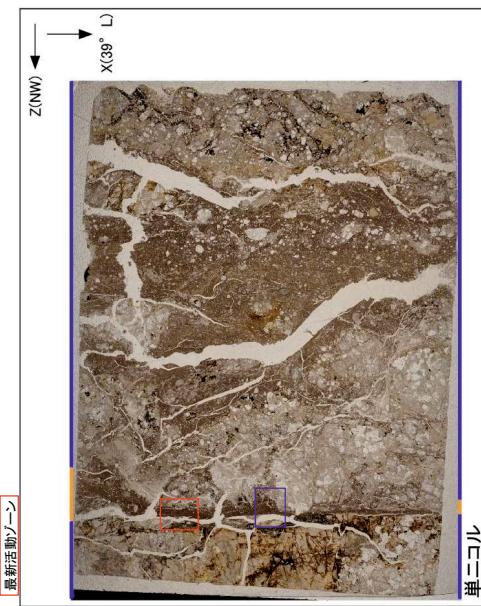
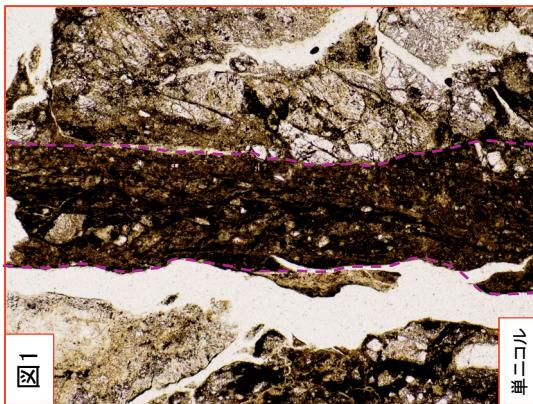
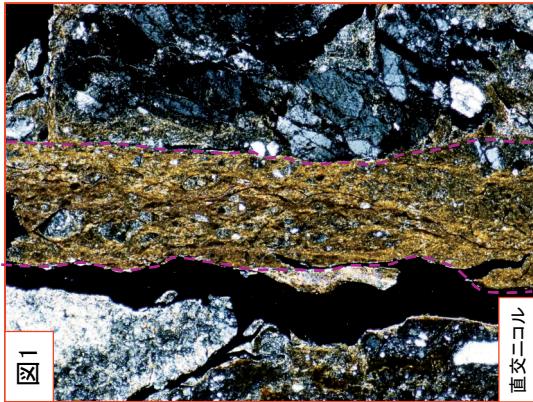


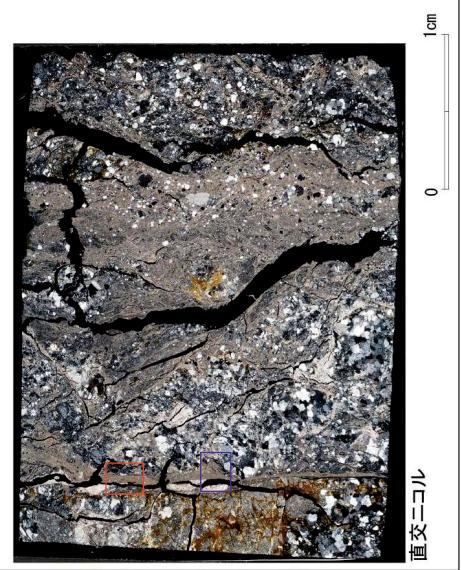
- H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
 - ▷ (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ▷ (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ▷ 岩片は少ない。
 - ▷ (断層ガウジ) 丸みを帶びている岩片が多い。



- 最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



(肉眼観察結果 深度10.45m)

- ・肉眼観察では、粘土状部は軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- ・薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- ・薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - ・基質は粘土鉱物を主体とする。
 - ・粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - ・岩片は少ない。
 - ・丸みを帯びている岩片が多い。
- ・薄片観察では、カタクレーサイトの特徴が認められなかつた。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破碎部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。
・肉眼観察で確認された最新活動ゾーンの軟質な細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
・薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ. 断層角礫の有無	断層ガウジ. 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構構造. 変形構造 *
有	0.1	有

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合には肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合には「ー」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

- ・深度47.47～47.48mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とした基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度47.48～47.66mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とした基質も認められる。これらのことから変質した岩片からなる組織も認められる。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・深度47.66～47.86mの「粘土混じり岩片状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とした基質も認められる。これらのことから変質した岩片からなる組織も認められる。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

● 47. 47~47. 89m : 破碎部 (D-1破碎)

(Hc-1) 47.47～47.48m：粘土状部
傾斜65°で直線的にシャーブに連続。
石英粒を少量含む。軟質。
灰褐色を呈する。幅3～6mm。

(Hb) 47.48～47.66m：粘土質礫状部
上端65°で直線的にシャーブに連続。
下端は不明瞭で漸移的である。径2～
3mmの石英粒と径5～10mmの太半が粘
土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟
質。灰黄色を呈する。石英粒と岩片
多くはマンガン鉱染で黒褐色化す

る。幅67mm (68°)。
 47. 66～47. 86m：粘土混じり岩片状部
 (H₁) 上端は不明瞭で漸移的に、下端63°で直線的にシヤープに連続。径10～40mmの一部粘土化、一部硬さ「E」がないし、「D」の岩片主体で、岩片間の基質は灰黄～灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染色で黒褐色化する。全体は灰黄～灰白色を呈する。幅90mm (63°)。
 47. 86～47. 89m：粘土質様状部 (H₂) 上端63°、下端60°でともに直線的にシヤープに連続。径2～10mmの石英粒を多く含む。軟質。灰白色を呈する。幅15mm (60°)。

真写アロ



例 断層カウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載

細粒部が網目状に分布する

This vertical photograph captures a close-up view of a weathered rock face. The upper portion of the image shows horizontal sedimentary layers with a light tan or beige color, interspersed with dark, irregular patches of weathering. A prominent vertical joint or fissure runs down the center of the rock face, characterized by darker, more fractured rock material. The base of the image reveals a layer of talus or scree, composed of angular rock fragments of various sizes.

0 5 cm

細粒部が繩目状に分布する

破碎部性状 H24-D1-5
深 度 47.47~47.89m (肉眼觀察による断層岩区分)

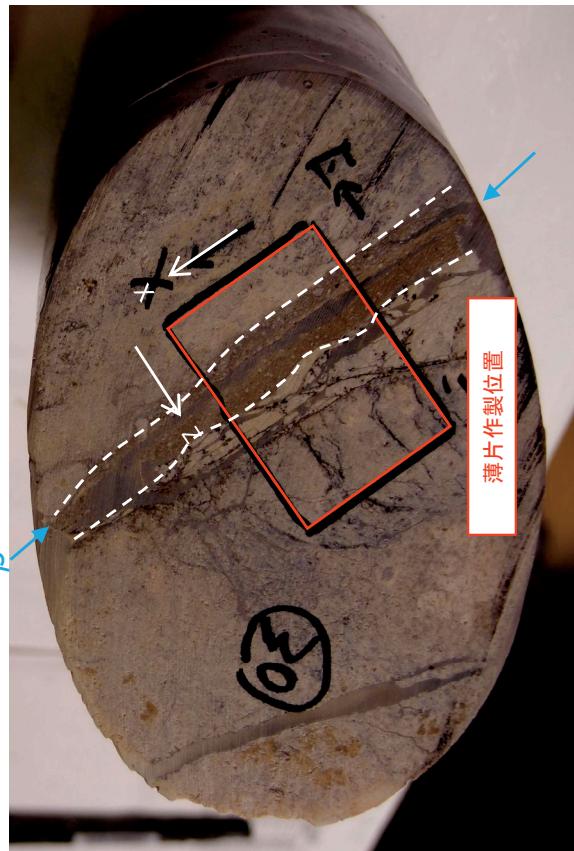
・薄片は断層面 β 及びび細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



※断層面 β は最新活動面

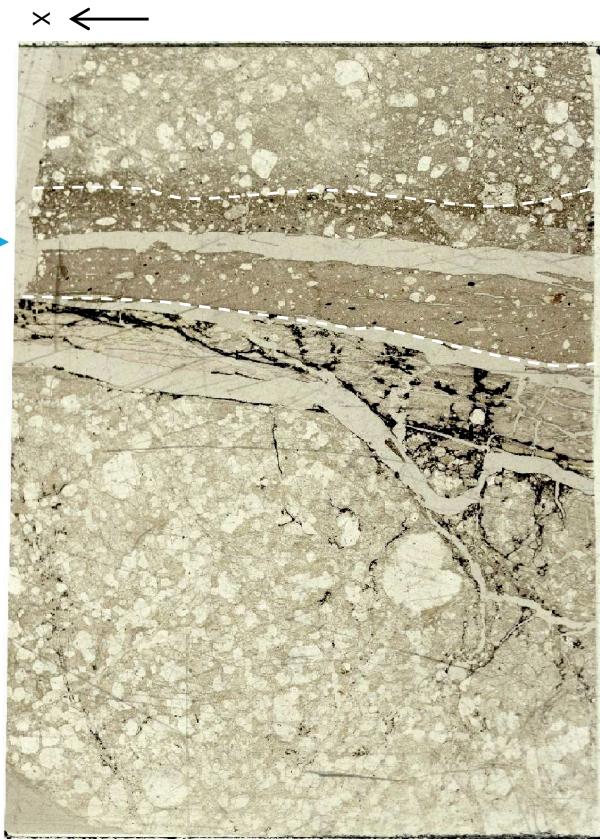
薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例	断層面	-----	肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲
		※:写真上は白色又は黒色で記載	

薄片全景写真(单ニコル)



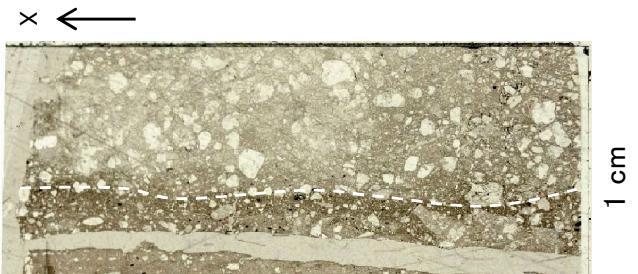
X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例	断層ガウジ	← →	破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載			

断層面

Z ←

β ↓



第7.4.4.348図 (2) 破碎部性状 H24-D1-5 深度47.47~47.89m (薄片作製位置)

H24-D1-5のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、正断層成分が卓越する。

最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。

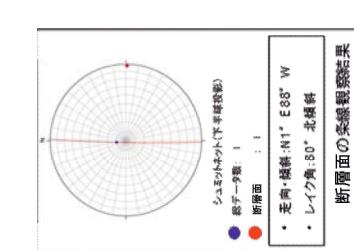
（断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。

（断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。

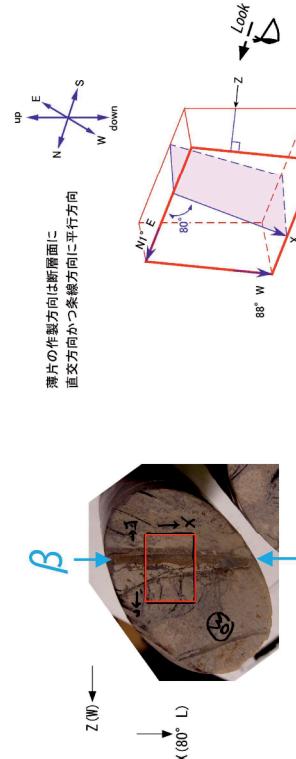
（断層ガウジ）粘土状部の分布は帶状で直線的である。

岩片は少ない。

（断層ガウジ）丸みを帯びている岩片が多い。



※断層面 β は最新活動面



薄片の作製方向は断層面に
直交方向かつ矢緯方向に平行方向

走向・傾斜 $N1^{\circ} E88^{\circ} W$

X: 矢緯方向 (下向きを正とする)

Z: 断層面の法線方向 (上側側を正とする)

赤色内の拡大

